

公園に至る時のことを歌ったものである。冬季の三日月はこの橋からみると尺間社のある山上にかかる。

この一首は、土屋文明自選の岩波文庫「土屋文明歌集」（昭和五九年刊）にも収められており、こうした優れた歌の舞台となったのが浜脇で開かれた本会であった。

参加者の殆どは鬼籍に入っており、現在アララギに詠している藤原、友広両氏もすでに八十歳を越えている。参加者のなかの最年長であった土屋文明は本年百歳になり、アララギの冒頭に真情の籠った作品を今でも掲

名勝解説 別府温泉地獄巡り

星野純郎

私の手元に昭和十三年発行の別府鳥瞰図ちゅうかんがあります。

小さなところまで大変丁寧ていねいに書いていて、建物たてものの形まで実に良く似ています。私の家の近くに金光教会の建物で、宮建築の大変立派なものがあります、その会堂へ

げている。

本稿を記すに当って、佐伯市在住のアララギ会員小谷種一氏より関係資料を借用した。氏は仕事の都合上この会に出席できず、土屋文明はじめ参会者からの寄せ書きを貰ったが、今なおそれを大切に保存されている。氏に写実の手法を固く守り、何事にも實際を尊ぶアララギ会員独特の氣質をみるのであるが、こうした人々の集まりが「九州小安居」であったようにも思う。

(一九九〇、七、一一)

の上り口の階段がよく分る程良く書き込んでいます。

それが初まりで次々と見ていると、公会堂の入口の形や広い階段、その両脇の石の壺まで書いています。

昔、一番の賑いを見た松原公園の周りには、松涛館があ

り、館の前には役者への幟が何本か立っています。世界館、松栄館と並び少し離れて泉都座とな。字館があります。駅前通りの電車軌道やスズラン灯まで分かり、女学校の校舎、野口の大仏、瓢箪温泉など一目で分かります。

中でも海岸線が面白く、天然砂湯の建物と砂湯のテント、大阪商船の巨船にその社屋等、古い別府の写真が目には浮かんできます。地図全体で見ると、浜脇から境川までが、三分の二、石垣から上人、亀川が三分の一に納められ、当時の別府の発展の様子が伺えます。中でも流川の大きさは特に目につきます。ラクテンチまでの広い直線で、見ているうちに、亀の井バスの地獄巡りで有名な文句を思い出しました。『此処は名高い流川、情のあつい湯の町を真直ますくに通る大通り……』で始まる日本で最初の女性ガイドの案内する名調子です。私もそうですが、大方の人に聞いても皆さんここまでは知っています。全部が、これより先はうる憶えで記憶にないようです。全部を知り地図で別府一周をしたいと思ひ調べてみましたら、幸いなことにガイド一期生の村上あやめさんが光町



当時の亀の井バス

に御健在とのこと、訪問し、昔の話を聞きました。そこで昭和八年に、ポリドールレコードから東京に招かれ、吹き込みしたものを聞かせて戴きました。八〇回転のレコードですから画面で六分少々しか録音できませぬ。そこで東京の旅館で、村上さんと一緒に行った芦辺さんと二人で、一日二日かけて全文の中から、是非全国に紹介したい場所を選び出し、吹き込みしたそうです。

場所としては、流川、満鉄療養所、鶴見園、そして八幡鶴見地獄、石垣原古戦場、鶴見岳裾野の温泉地帯、そして海地獄と鉄輪に別府遠望、次に柴石温泉、血ノ池地獄、次に海岸に出て速見ヶ浦、大仏像と北浜の砂湯、そして終点流川となっています。

その一節毎を村上さんと芦辺さんが、交互に吹込みしたそうです。何度も聞いているうちに、最初は雑音と聞いていたものが、驚いたことに、バックミュージックや効果音であることに気がつきました。内容は流川では、商店より流れ出る音楽と人々の雑踏音、鶴見園ではレビエールの音楽、八幡地獄では噴気のゴォーという音です。

古戦場では大友、黒田兩軍の進軍の足音、鶴見の裾野一

帯では小鳥の囀り、海地獄では昭和天皇の話になるので荘重な音楽となります。鉄輪からの別府遠望ではワルツとなり、速見ヶ浦から北浜までは波の音です。

そして全体を通して区切りの良い所でバスの警笛の、ブブブッが入ります。吹込みをしてあるのは以上のようですが、全体的な資料としては、昭和七年、十一年の各版と、年代は書いていませんが戦時版が図書館や美術館に残っています。

いずれも著者は薬師寺知臈、筆名不老暢人となり、社長油屋熊八のバスに働く女車掌の心得等、誠に細心の注意書があり、当時が偲ばれます。

昭和七年版に、今までの案内文が全部含まれていますので以下、紹介いたします。

名勝解説指針 解説教科書

目次

車掌諸子に対する希望

油屋社長

車掌心得

総務課

作者の言葉（解説原文に就て）

不老暢人

解説者不断の用意

総務課

第一編（普通本廻り）

第二編（普通逆廻り）

第二編（支線往復）

本廻りとは、流川を基点として八幡鶴見を経て鉄輪より亀川に下り、海岸を通過して基点に帰る道順です。

これと反対に速見ヶ浦より巡るのを逆廻りと呼ぶ、となっております。昭和七年、十一年版共に両方とも収録されていますが、戦時版については逆廻りしか残ってません。

第一編 普通本廻り

第一章 自 起点 至 八幡

「お待遠さま、之から地獄巡りでございます」

「御案内いたします」

○流川通

此処は名高い流川、情のあつい湯の町を、真直に通る大通り、旅館商店軒並び、

夜は不夜城でございます。

○温泉都市

四季の気候は快き、心つくしの九州に、山と海との眺めよく、出湯溢るゝ此の町は戸数一万・人口の、凡五万を数へられ、東・西より南より、北より来る内外の客は一歳百余万、外国迄も知られたる

温泉都市でございます。

○公会堂

右手近くの壮大な、クリーム色の建物は、公会堂でございます。

○吉備山

左は吉備山・嶺の、あの密林は模範林、麓の丘は桜咲く、花の名所の浄水池、

其の左手は八幡宮、朝見神社でございます。

○乙原山

正面高く仰がる、乙原山の高台に、ケーブルカーを走らせれば、中国四国の涯迄も、遙か一目に観られ又、音に聞こゆる乙原の、滝は谷間に布を引き、山の上には高野さん、乃木館などもございます。

○別府公園

右一带の松林、三万余坪は別府市の、森林公園其の中に、運動場が設けられ、県の商品陳列所、温泉神社などもあり、付近には又・陸軍の、衛戍病院がございませす。

○躑躅園

左林の中ほどに、広く続くはつじ園、其処は曇きの日畏くも、皇后陛下の東宮に、御入内前九州へ、お成りの折りの途すがら、お泊りませし致楽荘、其の処在地でございませす。

○高等小学校

左は高等小学校、其の校舎でございませす。

○鶴見丘

右手の丘の一带は、展望広く美しく、

名だたる別府八景の、鶴見が丘でございませす。

○京大研究所

鶴見が丘に聳え立つ、あの壮麗な洋館は、京都帝国大学の、地球物理学研究所、温泉地帯研究の、唯一機関と申します。

○山水園

左に続く庭園は、山水四季の景に富み、桜・花咲く名どころの、山水園でございませす。

○満鉄療養所

道の右手の一廊は、「此処はお国を何百里、離れて遠き満洲の」其の満鉄の療養所、此処も桜の咲き誇る、花の名所でございませす。

○昭和園

すぐ正面は昭和園、亀の井別館でございませす。

○鶴見園

次ぎの名所は鶴見園、園の中には温泉も、歌劇もあれば九州の、宝塚とも申します。

○地獄地帯



右はしが村上さん

次は観海寺、又其の次は八幡の

地獄地帯でございます。

○観海寺

左の丘は御幸坂、登れば海の眺めよき、

別府八景観海寺、花と紅葉で名の高い、

温泉場でございます。

○八幡

行く手に見ゆるあの丘は、八幡鶴見の両地獄、

煮え立ち返る熱湯は、此の世からなる恐ろしき、

焦熱地獄でございます。

「八幡でございます、

地獄の御見物あそばしませ、御案内致させます」

第二章 自 八幡 至 海地獄

「お待ち遠さま、次は鉄輪でございます」

○鳥の湯跡

左の村は村人に、鳥の湯跡と稱えられ、

明治維新の当時迄、病に悩む鶴などが、

谷の出湯に集ひ来て、浴みせし地と申します。

○古戦場

此の高原の一带は、石垣原の古戦場、三百三十余年前、慶長五年の秋九月、南軍大友義統は、黒田如水の北軍と、五日に亘りて激戦し、武運拙く南軍の、主将吉弘統幸が、

「明日は誰が、草の屍や照すらん、

石垣原のけふの月影」と

辞世の歌を詠み捨て、あたら陣頭の露と消え忠烈の名を後の世に、貽せし処でございます。

○古戦場橋

正面に見ゆるあの橋は、古戦場橋と申します。

○九大研究所

右の林の一带は、九州帝国大学の、

温泉治療学研究所、其の地域でございます。

○扇山登山口

左側なる石門は、扇山への登山口、

山の麓の高原は、我が陸軍の演習地、

山の背後はもみじ葉の、紅ひ燃ゆる鶴見谷、

其処は数千年前の、陥没跡と申します。

○温泉地帯

此の高原を中心に、東南北に拡げれる、鶴見の裾野一带は、温泉地帯と呼びなして、五哩四方の其の中に、湯口の数は約二千、出湯の量は一晝夜、凡そ二十と五万石、さすが別府でございます。

○鉄輪遠望

遙か正面の稍右に、人家の続くあの丘は、年十万の浴客を、迎えて送る鉄輪の

温泉場でございます。

○明礬遠望

斜左に湯煙の、登る林の彼方なる

山の部落は明礬の、温泉場でございます。

○新別府

右え降れば新別府、先年久爾の宮様の、

御別邸地と定まりし、蒼れある地でございます。

○パノラマ

此処の天恵豊かなる、温泉地帯の中央に、

左の空を見あぐれば、火を吐きやめし鶴見獄、首を右にめぐらせて、遙か彼方を見おろせば、霞たなびく豊後灘、この一帯を彩れる、

出湯の原と山と海、百景万勝たてよこに、錦織りなす其の綾は、げにパノラマでございます。

○鉄輪温泉

次ぎの鉄輪温泉は、六百五十年前の、

昔一遍上人が、八町四面の地獄をば、

衆生の為に埋立てて、熱の湯・蒸湯を築き又、

時宗の一派を開かれし、由緒ある地でございます。

○鬼山地獄

之より上の一帯は、昔の爆裂火口跡、

そのの鬼山地獄から、湯を噴く力の猛烈さ、

その湯の色の美しさ、稀な見ものでございます。

○十万地獄

すぐその上は昔より、十万地獄と呼び伝え、

色様々の熱泥が、沸き立つさまは趣味のある、

研究資料と申します。

○新坊主地獄

次は眺望第一の、名のある地獄新坊主、熱泥絶えず渦を巻き、地獄地帯に珍らしい、

見もの一つでございます。

○海地獄

又其の右は海地獄、緑滴る絶壁を、

背景とせる谷あいには、深く湛えし熱湯は、

色紺碧の海に似て、其の物凄さ美しさ、

嘗て今上階下には、また東宮におわす時、

其処に台臨あそばせし、別府名所でございます。

第三章 自海地獄 至 亀川

「お待ち遠さま」

「次は柴石温泉を経て

竈・血ノ池・洞門でございます」

○別府湾遠望

遙かに向ふに美しく、てうど湖水のそれに似て、

鏡あざむくあの海は、風光絶佳の別府湾、

新渡戸博士はナポリにも、優る景色と褒めたゝえ、

ドクトルベルツ亦嘗て、たぐい世に無き絶景と、

感嘆されし名にし負ふ、海の眺めでございます。

○別府市遠望

右の真下は昔より、名高い鉄輪温泉場、
白い奇抜な建物は、瓢箪温泉その先に、
遠く連なる山脈の、抱ける海は別府湾、
湾の眺めは絵の如く、浜辺に人家群がりて、
烟漂たなよふあの町は、此処から直径三哩、
温泉情調濃やかな、湯の町別府でございます。

○日出見台

右の彼方に緑なす、山と海とに囲まれて、
琉瑠とも擬まがうあの海は、別府八景日出の沖、
遠く霞める山脈の、先はさざなみ浪華まで、
遥かにつゞく瀬戸の海、此の一帶の展望は、
さながら近江の三井寺に、

見たる琵琶湖でございます。

○降り道

之より山を降り道、右手の彼方谷のあいの、
あの赤屋根の洋館は、海軍病院でございます。
右の真下の湯烟は、赤泥たぎる血ノ池の、

爆発跡でございます。

○柴石温泉

此のトンネルを過ぎ行けば、別府八景柴石の、
いと閑静な温泉場、昔後朱雀天皇の、
太子親仁親王あふとが、其処に御湯治遊ばせし、
尊き遺跡と申します。

○竈地獄

次は谷間の岩の上に、竈のやうな形して、
五穀いちびを蒸すと云ふ、竈地獄の釜地獄、
村も釜戸と申します。

○血の池地獄

次の地獄の血ノ池は、赤く湛えし大地獄、
血のわくような熱泥の、その物凄紅ひは、
海の地獄の紺碧と、思ひ合せて不可思議な、
コントラストでございます。

○洞門

直ぐ此の下の洞門は、げに実物と変らない、
鐘乳洞の大模型、それに続いて釈迦孔子、
基督などの像もあり、ほんに見ものでございます。

○海軍病院

斜左の赤屋根は、巽まがひに山から御覽せし、
海軍病院・その前に、連なる家は鉄道の

サナトリウムでございます。

○長生閣

左二階の建物は、台湾婦人団体の

経営に成る休養所、長生閣と申します。

○亀川温泉

行手に見ゆる市街地は、人口五千・戸数千

海に面して山を負ひ、景色もいと麗はしく、

温泉地帯の北端に、出湯豊富な亀川の、

温泉場でございます。

第四章 自 亀川 至 終点

○走馬燈

之より南・南へと、見ゆる景色は走馬燈、

右に山々左海、道坦た々たる四哩マイルの、

速見ヶ浦を懐しい、別府へドライブ致します。

○龍宮城

左の方の美しい、湾を抱いて波に浮く、

優しいかないな其儘の、左右二つの半島は、

左国東右なるは、同じ豊後の佐賀の関、

関の港の上浦は、二夕千五百余年前、

神武天皇御上陸、あらせ給ひし処にて、

今・山の端に絶間なく、烟を吐ける製錬所

東洋一の烟突は、高さ五百と五十尺、

大烟突の沖遠く、霞のヴェール被れるは、

乙姫ならぬ愛媛県、伊予の西なる佐田岬、

浦島太郎の龍宮を、偲ぶ眺めと申します。

○別天地

此処のあたりは景色よく、右も左も湯を噴いて、

客待ち顔の別天地、皆様此処に別荘を、

お建てありては如何です。

○上人鼻

斜左に緑濃く、松の林の茂れるは、

昔鉄輪温泉の、開祖一遍上人が、

伊予の道後に鹿島立ち、瀬戸内海を渡り来て、

上陸されし由緒ある、上人が鼻でございます。

○鶴見嶽遠望

右の遙かに聳ゆるは、別府富士とも稱えられ、高さ四千五百尺、千年前迄火を吐きし、男性的の鶴見嶽、其の右裾に愛らしく、座る姿のあの山は、倒さ扇の扇山、てうど小富士でございます。

鶴見が嶽の左から、カーブ重なる坂路を、登り盡せば由布が嶽、

「山は高いし野は只広し、

独りとぼく旅路の憂うれさ」と、

古え人の嘆なげちける、由布山腹の高原も、

いまは僅かな時の間に、神秘的にて雄大な、

景色を送り迎へつゝ、ドライブするも面白く、

別府八景由布院は、山の彼方の温泉場、

亀の井別荘もございます。

○実相寺山

右手に近きあの丘は、別府八景実相寺、

温泉地帯の全景が、一と目に見られ其処は又、

慶長五年の戦ひに、北軍黒田の本陣を、

置きし処と申します。

○高崎山

斜左に聳ゆるは、別府八景四極山、

俗に高崎山と呼び、温泉地帯を境して、

高さ二夕千三百余尺、登りつめたるいただきは、

大友時代の城の跡、山の眺めは歌をよみ、

絵をかく人に歡ばれ、山の中には山猿の

叫びあわれに聞えます。

○東公園

高崎山の右の方、湯煙なびく湯の町の、

花の浜脇公園は、山と海とを見晴らして、

そこも別府の八景に、数ふる処でございます。

○速見浦

此の一帶の海浜は、世を経る波に磯そ馴な松、

緑添ゆると歌はれし、速見が浦でございます。

○大分港遠望

斜左の彼方なる、霞の中に灯台の、

微かに見ゆる海岸は、別府の東七哩、

そこは函宮春日浦、大分県庁所在地の、

其大分の港口、昔大友時代には、

外国貿易行はれ、大慶高樓並び立ち、

海には帆柱林立の、繁華を極めし町の跡、

始めて西洋文明を、我が日の本に輸入せし、

歴史ある地でございます。

○大仏

斜右手は大仏像、あの烟突の右の方、

林の中に丸々と、円い頭を現はすは、

奈良の大仏より高く、高さは実に八丈の、

世界に稀な大仏像、其の前方の烟突を

大仏像に供へたる、扱も大きな線香と、

見るは如何でございます。

○境川

直ぐ正面のあの橋は、境川橋・川の名は、

市部と郡部の境川、橋を渡れば憧憬の、

湯の町別府でございます。

○海水浴場

附近の海浜一帯は、海水浴場・夜は又、

星の流れとさも似たる、沖のいさり火美しく、

此処に展望せられます。

○鶴水園

左は文化住宅地、鶴水園と申します。

○弓掛松

右学校の庭にある、古りにし松の太木は、

鎮西八郎爲朝の、弓掛松と伝えられ、

此処の地名は的が浜、謂れある名でございます。

○駅前通

右へ廻れば駅に行く、駅前通でございます。

○北浜通

此の一带は我国の、新八景に数へられ、

西に鶴見の峰を負ひ、東に瀬戸の内海を、

抱く眺めはなごやかに、湯の香漂ふパラダイス、

其の湯の町の名所とて、砂湯に天下一品の、

名ある別府の北浜は、此処のあたりでございます。

○終点

次ぎは海岸流川、盡きぬ名残を惜しまれて、

地獄廻りは済みました、亀の井は謹んで

皆様の御健康を祝します。

「終点でございます、お勞れさま、

お忘れものの無いように……

切符を頂戴致します。」…停車

附 斜め右手の小屋掛は、今温泉を掘る処、

湯突櫓と申します。

(本、逆廻りとも、途中一ヶ所を選び

其の方を指さして解説する)

以上が本廻りです。逆廻りを考えてみますと、柴石を経て鉄輪に上る時、現在の貴船城の下で、パツと一度に視界が広がり、目の前に鉄輪の湯煙りが、瓦屋根の軒先から、もく／＼と昇り、実相寺山が丸い姿を見せ、その先に別府市街地が総て見え、観なれた私でも絶景だと、いつも思います。それ程、受ける印象が本廻りとは大變に差のあることに気がつきます。そのことは一ヶ所に止どまらず、コースの大半について、いえることだと思われま

新緑の季節についての解説や、雨又は霞のかかった日には、別の文章による読替があります、それだけでも、四・五ページを要する程です。四季・天候を選ばずどんな場面でも対応できるよう細心の注意で解説教科書を作った著者。バスにマイクのまだついて無い時、

性能の悪い大きな音のするエンジン、加えて未舗装道路のガタ／＼の振動。それらの雑音に負けないだけの大声を張り上げて解説する若いガイド。乗務が早く終った時には、桟橋から浜脇あたりまで出かけてピラ配りをしたそうです。

運転見習いの人は、一番のバスに乗り道路整備と各地獄に待機して、到着した客へ地獄の説明。又、運転手と見習いさんは、夜、バスの修理と手入れ。

そんな人達総てを引っぱって陣頭指揮をとった、油屋社長の觀光にかける熱意。一枚の地図から初まった、ことです、大變興味深く、又面白く勉強いたしました。

別府観光の先人の苦勞に感謝しつつ……。

美しき声はりあげて 愛しき少女おとめ

歌ふがごとく

名所をば説く

(昭和四年) 十二月、龜の井滯在中の

尾崎罌堂翁 地獄巡りより帰りて詠む。



鬼の窟 聖人ヶ鼻
 温泉案内
 海岸砂湯 霊潮泉 楠温泉 不老泉 四の湯
 濱臨温泉 田の湯温泉 竹瓦温泉 菅田温泉
 亀川千人風呂 ひょうたん温泉 蹴鈴蒸風呂
 柴石温泉 明徳温泉 堀田温泉 観海寺温泉
 地獄巡り
 海地獄 坊主地獄 血の池地獄 鶴見地獄
 八幡地獄 鬼山地獄 龍巻地獄 十萬地獄
 白池地獄 竜戸地獄 雷園地獄 鬼石地獄
 照湯地獄 結屋地獄
 別府を中心とした日鐙りのハイキングコース
 (市観光課のハイキングコース参照)
 1 由布院コース 2 高崎登山コース
 3 ゴルフリンクスコース
 4 扇山内山溪谷コース 5 鶴見登山コース
 6 由布登山コース

大別府温泉觀光鳥瞰圖



別府ふるま

觀光要覽

別府の往昔は遠見ノ濱又は遠見湯と稱へられ、古來よりの温泉場であつて其の名は詩歌にまで詠せられたが、都を遠く離れ且つ交通不便なりし爲め久しくその發達を見ず、片たる一寒村に過ぎなかつた。然るに明治三十九年四月、濱脇、別府の兩町を合して別府町と改稱し漸次海陸交通機關も完備するに至るや、豊富なる泉量と明媚なる風光とに相俟つて、一躍全國的の遊覽温泉・療養都市として中外に喧傳せられ外客の來住する者日に多きを加へ遂に大正十三年四月一日を以て市制を施行した。其後十餘年の歳月に伴ふ狀勢の變化は西北方面にその伸展を餘儀なくせしめ、昭和十年九月四日遠見郡石垣村、朝日村、亀川町の隣接三ヶ村町を合併し、茲に大別府市を形成するに至つたのである。

市街は南北に沿うて井然其局を見るが如く廣潤なる街路は殆ど舗装を施され景観絶佳にして四時の風趣に富み、恰も一幅の名畫を展開したかの感がある。山河襟帶の形勢はよく氣候に順應し空氣亦清鮮溫和なる爲め四季の清遊、特に避暑遊には最も好適である。

温泉は山麓、谿間、海濱の別なく至る所に湧出する砂湯の如きは別府温泉の代表的温泉であつて、最も能く痼疾に効あることは汎く周知の事實である。

對外交連は四通發達、東は大坂・神戸、西は長崎、南は大分市を経て宮崎・鹿兒島・熊本、北は小倉・門司を経て關西・關東各方面に通じ、更に異國各地より自由に而も迅速に來遊の便あり、故に歳月と共に觀光浴客は彌か上にも増加し今や全く世界的泉都たるの形態内容を具備し、茲に一段の伸展を劃しつゝある。



- 別府八景**
- 1 鶴見ヶ丘
 - 2 高崎山
 - 3 實相寺山
 - 4 観海寺乙原高台
 - 5 東公園
 - 6 日出城下海岸
 - 7 由布仙桃
 - 8 柴石溪流
- 別府三勝**
- 1 内山溪谷
 - 2 志高湖
 - 3 佛崎公園
- 其他の名所舊蹟**
- 維新の元勳井上馨侯遺蹟(千辛万苦の場)
 別府公園及野球場 松原公園 海門寺
 別府大佛 つしじ園 山水園 鶴見園
 ケーブルカー 九大温泉治療學研究所
 京大地球物理學研究所 滿鐵館
 鬼島補羊牧場 八幡朝見神社 吉弘公園
 鬼の窟 聖人ヶ鼻
- 温泉案内

昭和十三年四月三十日編
 昭和十三年五月十日發行
 發行所 石田 田 田
 印刷所 石田 田 田
 印刷所 石田 田 田
 印刷所 石田 田 田
 印刷所 石田 田 田
 印刷所 石田 田 田